

SDGs持続可能な環境を！ 美しい日本、東京そして品川を目指して

品川区議会議員

区議会自民党

小芝 新

特別号（六月十日）

こし ば新 聞



【お問い合わせ先】
自由民主党東京都品川区
第三十四支部
〒140-0014
品川区大井5-6-2-101
☎090-6106-2272
Fax03-6303-7037
※ご希望の方には新聞を
お届け致しますので、ご
連絡願います。



新聞のバック
ナンバーは
HPに掲載し
ています。

質問の答え

Q1 ③

Q2 ②(ただし①も自治体によっては正解)

裏面は、品川区の環境政策を
前進させるために
お2人から意見を聞きました。

プラスチックゴミが有料化になる日も近い？

プラスチックゴミの削減に向けて2020年7月からコンビニなどでレジ袋が有料化されました。
しかし、レジ袋がプラスチックゴミ全体に占める割合はたったの2～3%です。
ここでプラスチックゴミを考える上で2つ質問します。正解は、紙面の一番右下にあります。

Q1

国民一人あたりが1年間で捨てる
ペットボトルゴミの量は？

- ①15kg
- ②25kg
- ③35kg



Q2

次のうちペットボトルを捨てる方法
として正解はどれでしょうか？

- ①そのまま資源回収へポイ！
- ②フタとラベルをプラスチック包装
容器ゴミ、ボトルは資源回収へポイ！
- ③燃えるゴミにポイ！

【廃プラスチックの歴史アジア編】

日本は1980年代以降廃プラスチックを中国などに輸出してきました。中国を中心としたアジア全域で、廃プラスチックの分別や加工が行われてきたのです。

しかし、中国は2017年から自国の環境汚染を理由に廃プラスチックの輸入規制にとりかかりました。

今では、マレーシアが最も廃プラスチックを輸入しています。アジアにおけるプラスチックゴミによる環境汚染が影響して、日本ではバーゼル法改正に伴い、今年の1月から廃プラスチックの輸出が大幅に規制されることになりました。(※綺麗なプラスチックゴミならば規制対象外)

今後は国内で中間処理をする取り組みがより一層促進される時代に突入します。

【法律改正と民間事業者の参入】

本年3月8日に閣議決定された、『プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案』では、実際に廃プラスチックを再利用して新たな製品を製造する事業者が個別にプラスチックゴミを自主回収する取り組みが求められています。

この法律が施行されれば、これまでは品川区が行っていたプラスチックゴミの分別や梱包作業は、民間の事業者任せられることになります。当たり前のように捨てていたプラスチックゴミも民間事業者が参入することで、私はより一層の分別を区民の皆様に徹底していただくことになると思います。

これまで税金でしたが、これから民間が参入すれば、**プラスチックゴミなどにもお金がかかる仕組みになっていくのではないかと危惧しています。**

そこまでしないと、アジアの環境汚染を食い止めることができない段階にきているのであるならば、品川区、東京都、そして国が説明を果たすこと、分別がしやすい環境を整えていくことが必要と考えます。

【東京一、綺麗な自治体 品川区へ】

例えば、資源回収ボックス一つをとっても、区内の地域によってその差に隔たりがあるのが現状です。

資源ゴミの種類ごとにカゴを置いている地域もあれば現場の作業員の方が一つ一つの袋を確認する地域もあります。後者では、手間がかかってしまいます。

その手間を省くために、品川区が分別のしやすいゴミ置き場を設置し、区民がストレスに感じないようなゴミ出しの環境を整えていくべきです。

品川区が環境に力を入れ、区民の皆様もその取り組みに協力することが、東京一の美化推進が徹底された、綺麗な自治体として、品川区が認知されることになると考えます。

【企業支援と”当事者意識”の醸成】

また廃プラスチックを製品として循環させる企業を支援する環境を整えていけば、

消費⇒排出⇒再生⇒再製品化⇒消費...の流れが品川区で展開される日も近くなるのではないのでしょうか。

品川区では、来年中に戸越公園の傍に『環境学習交流施設(仮称)』が竣工します。この施設を通じて、小中学生には社会科見学として「環境」が地球を救うことを学んでいただくなど、区民の方々誰もが、「当事者」となって、意識と行動に繋げてもらいたいと考えています。

プラスチックゴミによる環境汚染を食い止めるためにも、品川区の大きな挑戦がこれから始まります。私、こしば新は、その挑戦を議会から後押ししていきます。

区政活動等をアップしています。Facebook Twitterで「こしば新」と検索してみてください。

衆議院 環境委員長を務める石原ひろたかさんに国の環境施策について伺いました。

国の環境政策は、公害対策からスタートし、人口増、生産拡大により、廃棄物が増大したことから3R(リデュース・リユース・リサイクル)政策に重点が置かれるようになりました。
現在は、地球温暖化・気候変動による被害(豪雨災害・山火事等)が増加した為、地球温暖化効果ガスを抑制する政策に軸足が移って来たのです。

今回、小芝区議が取り上げた廃プラスチックの問題は、2019年 G20大阪サミットで日本が提唱した「大阪ブルーオーシャンビジョン」に対する政策として国会に提出された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案」に関連した課題です。

廃プラスチックは年間約900万トン排出(2018年時点)され、そのうち84%がリサイクルされ、16%は単純焼却もしくは埋立処理されています。

ワンウェイ(使い捨て)プラスチックと呼ばれる製品を大量に排出する企業に国が勧告・公表・命令を出来るようになりました。また、製造・販売事業者等が製品等を自主回収・再資源化する計画を作成した場合、廃棄物処理法の業許可を不要とすること等でリサイクルを更に推進する法律です。
今後、品川区における一般廃棄物の分別が細かくなると予想されますが、化石燃料の利用を抑制し、海洋へのプラスチック流入を抑えるために皆様のご協力をお願い申し上げます。



Profile

1964年 生まれ
1988年 慶応義塾大学 卒業
1988～2003年 日本興業銀行 勤務
(現 みずほフィナンシャルグループ)
2005年 衆議院議員 初当選
外務大臣政務官、国会対策副委員長、
内閣府副大臣、副幹事長、団体総局次長、
選挙対策副委員長、環境副大臣など歴任。
現在4期目、衆議院環境委員長

都政を目指す沢田ひろかずさんに東京都の取り組みと考えをお聞きしました。



東京都では環境政策の一つとして、プラスチックの再利用を促す取り組みがなされています。これまでプラスチックゴミは、燃やして燃料にするサーマルリサイクルが中心でした。

しかし、世界では、これはもうリサイクルとは言えないのです。今、東京都では日用品メーカーや自治体と協力して、使用済みのプラスチックを燃やすのではなく、再び同じ製品として再利用できる取り組みに向けて事業支援を行っています。

東京都はまだ一部の自治体、企業としか連携が取れていませんが、品川区が誇るものづくりの力で、区内の企業と連携がとれると考えています。

私は3期務めた区議会議員の経験を活かし、小芝区議など品川区議会と強く連携していきます。一方で区と都が連携を図るには、常に国政の動きをキャッチしておく必要があります。

Profile

1980年 品川生まれ
1999年 東京都立日比谷高等学校 卒業
2003年 日本大学法学部法律学科 卒業
衆議院議員石原宏高 秘書、品川区議会議員3期当選
2017年 東京都議会議員選挙にて15,807票頂くも惨敗
現在、自民党東京都連青年部長代理
自民党品川総支部青年部長

私がかつて秘書を務めていた石原ひろたか衆議院議員は、環境副大臣を務め、現在は環境委員会の委員長に就かれていますので環境政策に熱心に取り組んでいます。
国政としっかり連携を取りながら、東京都政の環境政策を推し進めていきたいと考えます。

企業広告



ドライバー付きレンタルトラック

レントラ便

軽トラ30分(セルフ型) 税込 ※各種トラック有

3,510円～

軽トラ30分(セルフ型)

こんな時におすすめです /

- ✓ 時間制料金でお得に運搬・引っ越し
- ✓ トランクルームへの運搬に!
- ✓ 家具家電の運搬!
- ✓ 買取や不用品回収も!

本社: 〒140-0013 東京都品川区南大井 5-12-3

運営: 株式会社ハーツ

0120-823-582

レントラ便

QRコード



区政活動等をアップしています。Facebook Twitterで「こしば新」と検索してみてください。